

## 令和5年度第6回（第10期第5回）国分寺市環境審議会議事要約

日 時 : 令和6年2月29日(木) 午前10時～正午  
会 場 : cocobunji プラザ セミナールーム

### ○会議次第

1. 開会
2. 議事
  - (1) 国分寺市ゼロカーボン行動計画  
～オール国分寺で取り組む脱炭素社会～の検討について
  - (2) 第五次国分寺市地球温暖化防止行動計画（市役所版）の検討について
3. 事務連絡
4. 閉会

出席委員 : 中西由美子会長, 大野政智副会長, 大友美輪委員, 益子美賀委員, 和田淳委員,  
竹内大悟委員, 野澤淳史委員, 六車貴美子委員, 卷田清委員, 伊藤皓子委員, 三浦貞  
夫委員

出席委員 : 11人

欠席委員 : 1人

傍聴者 : 0人

事務局 : まちづくり部まちづくり計画課5人(部長, 課長, 係長1人, 担当2人)

### 配布資料

- 資料1-1 国分寺市ゼロカーボン行動計画～オール国分寺で取り組む脱炭素社会～【案】
- 資料1-2 「国分寺市ゼロカーボン行動計画～オール国分寺で取り組む脱炭素社会～」策定に係るパブリック・コメント及び市民説明会の結果について
- 資料1-3 「国分寺市ゼロカーボン行動計画～オール国分寺で取り組む脱炭素社会～」策定に係るパブリック・コメントの意見概要と反映状況について
- 資料2 国分寺市役所ゼロカーボン行動計画（第五次国分寺市地球温暖化防止行動計画（市役所版））【案】
- 参考資料 (仮称)国分寺市地球温暖化防止行動計画（市域版）及び第五次国分寺市地球温暖化防止行動計画（市役所版）について（答申）（案）
- 令和5年度第5回（第10期第4回）国分寺市環境審議会議事要約

## 1. 開会

- まちづくり計画課長あいさつ  
まちづくり計画課長よりあいさつを行った。

## 2. 議事

- 配布資料の確認  
事務局より配布資料の確認を行った。
- 国分寺市ゼロカーボン行動計画～オール国分寺で取り組む脱炭素社会～の検討について  
事務局より資料1-1, 1-2, 1-3を説明  
中西会長：パブリック・コメントでは具体的な内容や別の視点からのご意見もいただいて、それらを計画に反映したという印象である。  
和田委員：資料1-2に関して、計画に反映する意見の数が16件、計画に反映済みの意見の数が14件とあるが、数の違いにはどのような意味があるのか。  
事務局：計画に反映する意見のうち、反映する箇所が同じご意見については、一部まとめさせていただいている。資料1-2項目9については資料1-3におけるNo.23とNo.72のご意見をまとめて反映している。資料1-2項目14も同様で、No.69とNo.70をまとめて反映している。  
中西会長：同じ意見はまとめたということか。  
事務局：計画への反映箇所が同じ場合はまとめさせていただいている。  
中西会長：資料1-2では、計画に反映しない意見は「無」としているが、どのような考え方で判断しているのか。  
事務局：今回のパブリック・コメントでは、具体的な取組の提案に関するご意見を多くいただいた。しかし、本計画は、ゼロカーボン実現に向けた大きな方針を示す計画であるため、個別の具体的な取組に関するご意見は、今後の具体の施策実施に当たっての参考にさせていただくという方向で回答させていただいている。  
中西会長：今回意見で出された具体的な取組は、今後、環境基本計画や実施計画に反映されていくのか。  
事務局：反映される取組もあれば、環境基本計画等に記載せずとも、所管課が社会動向や予算の状況等を踏まえて判断し、取組を検討していくものと考えている  
六車委員：今後所管課が取り組んでいくとのことだが、計画の進捗管理に関して、進捗状況の発表の場はあるのか。せっかく数値目標を設定したのに、達成できなかったという状況になってしまうとよくない。  
事務局：指標については、毎年進捗状況を確認し、環境報告書や市のホームページで公表していく予定である。本計画は環境基本計画の地球環境分野の個別計画として位置付けているため、環境基本計画の進捗管理の中で、環境推進管理委員会によって確認を行い、評価いただく方針である。  
六車委員：環境推進管理委員会の評価を受けた後はどうするのか。

- 事務局：評価結果を庁内で共有し、個別の指摘事項について各課で今後の対応を検討する形である。
- 六車委員：評価を受けた結果、今後はこのように取り組んでいきますということを公表するべきではないか。
- 事務局：環境基本計画を見直し中であるため、今後、環境基本計画の進捗管理として、環境審議会においても議論することとなると思うが、現状の進捗管理においては、環境推進管理委員会の評価の際にご指摘をいただいた場合、指摘を踏まえて、各課で今後の対応方針を検討し、環境推進管理委員会に対し、検討について報告している。
- 中西会長：66頁に計画の進行管理について記載されている。また、環境審議会と環境推進管理委員会の役割分担については、昨年度の環境審議会において、次期環境基本計画のあり方として整理している。環境審議会は計画について審議する場であり、環境推進管理委員会の評価を受けて計画自体について議論があれば、その審議は環境審議会で行っていき、その結果は環境報告書で報告していくものと認識している。
- 六車委員：ぜひホームページで環境報告書を公表したことを市報に掲載していただき、本計画をいかしていただきたい。
- 中西会長：環境報告書は市のホームページで公表しているのか。
- 事務局：市のホームページで公表している。
- 六車委員：環境報告書を公表しているということが、広く周知されることが望ましい。
- 中西会長：パブリック・コメントの意見でも、計画書が読みやすい・見やすいといった評価をいただいております。第1章の地球温暖化をめぐる国内外の動向やコラムの説明もかなり勉強になる内容となっている。今後はこの計画を踏まえた施策の中身をしっかりと進めていただきたいと思います。
- 三浦委員：パブリック・コメントの件数から、本計画や温暖化問題に対する市民の関心の高さが伺える。一方、市民説明会の1回目の出席者1名というのは何か事情があったのか。参考として、想定参加人数などを教えていただきたい。
- 事務局：1回目の市民説明会は、平日夜の開催だったため参加人数が少なかったと考えている。また、市民説明会は、パブリック・コメントとして計画案を公表している中で、計画について説明が必要な方に参加いただくという位置付けであるため、おおむね想定に近い人数が参加したと認識している。
- 中西会長：市民説明会の周知は行っているのか。
- 事務局：市報、市ホームページに加え、環境推進管理委員会、環境ひろば等の関係団体に周知させていただいた。
- 中西会長：意見の件数が多く、出された意見の内容も地球温暖化に関する知識を持つ方からの意見が多い印象である。
- 竹内委員：分かりやすい計画となっていると思うが、19頁の「多摩26市における総資源化率第1位」という記述は、市のPRとして、多摩市域でトップクラスの取組を実践しているということをもう少し前に出してもよかったですのではないかと思います。今後はぜひ分かりやすい数字等を市の姿勢として、もっと前面に出していただきたいと思います。また、パブリック・コメントの結果は公表されるのか。

事務局：資料1-3をパブリック・コメントの実施結果として公表予定である。

竹内委員：審議会の資料としては、資料1-2と資料1-3を合体した方がわかりやすかったように思う。

六車委員：他自治体の場合、パブリック・コメントの結果の概要が区報に掲載され、詳細はこちらを見てくださいという形でホームページの案内がある。国分寺市でも公表の仕方を工夫していただくと、市民の関心が高まるかもしれない。これだけの意見がきているので、結果を公表する際には、市民も高い関心を持っているという形で示していただけるとよい。

益子委員：市報でパブリック・コメントの意見募集を行った際は、二次元コードでアクセスできるようになっていたのと同じようにできるとよいのではないかと。

事務局：パブリック・コメントは市でしっかりと手続きが決まっております、公表の手法も決められている。本計画も市報に記事を掲載し、市ホームページで結果を公表させていただきます。

中西会長：意見を出した方にもフィードバックが必要ではないかと。

事務局：ご意見をいただいた方には、意見を受け付けた際に、4月頃に結果を公表する予定であることは案内している。

大友委員：カーボンニュートラルとGXの説明も用語解説に載せてはどうか。計画書を読んでいると専門用語がたくさん出てくるが、この2つの用語は計画本編のコラムで説明されているが、用語解説には掲載されていないため、後でもう一度意味を確認したいときに少し不便を感じる。

中西会長：計画本編で説明している用語は、用語解説には掲載していないのか。

事務局：基本的には、計画本編で説明しているものは用語解説には掲載していない。

中西会長：用語解説も勉強になってよいので、本編で説明していても掲載してよいのではないかと。

六車委員：コラムのページ数を目次に記載すると探しやすくてよいのではないかと。

竹内委員：ホームページで計画を公表する際に、用語をクリックするとリンクが貼ってあり、解説ページに飛ぶような仕組みにできるとよいのではないかと。

事務局：市のホームページのシステムを確認した上で、対応を検討させていただきます。

和田委員：参考資料の答申の鑑文について、「(仮称)国分寺市地球温暖化防止行動計画(市域版)及び第五次国分寺市地球温暖化防止行動計画」の文言は非常に分かりづらいと感じるが、過去の表現をそのまま使用するのか。

事務局：令和5年7月の諮問に対する答申であるため、当時の記載と整合させる形としている。

和田委員：答申は手続き上このような形になるが、今後はゼロカーボン行動計画を使っていくということか。

事務局：市役所版計画は第五次計画であるため、副題として地球温暖化防止行動計画が残るが、基本的には、ゼロカーボン行動計画の文言を使用していく。

中西会長：答申には、計画策定後の進行管理をしっかり行い、進捗状況を把握しフィードバックできるような仕組みにしていくこと、色々な形でこの計画をPRしていただきたいということを記載する形とする。パブリック・コメントの結果も、市民の皆さんに広く周知できるように工夫していただきたい。

六車委員：66頁の計画の進行管理に、進行管理の結果を市報で公表しますと記載してはどうか。

伊藤委員：行政に携わる立場から、市報での周知は重要と思うが、市報はその時のタイミングで掲

載できるときとできない場合がある。計画の記載については、「ホームページ等」といった記載にとどめるのが望ましいのではないかと。

事務局：市報は、そのときどきの各課の掲載希望により、掲載がかなわなかったり、掲載内容の制限を受けたりすることがある。制約が多いため、「等」とさせていただきたい。

(休憩)

●第五次国分寺市地球温暖化防止行動計画（市役所版）の検討について

事務局より資料2を説明。

中西会長：市役所版計画には、市域版である国分寺市ゼロカーボン行動計画との整合についても計画の視点として盛り込んでいただいている。私から1点質問したいが、19頁に「職員が日常業務の中で実践していくべき行動の例」が記載されており、2023年10月に市としてデコ活宣言を行ったとのことだが、職員に対してはどのような啓発を進めているか。研修を実施しているのか、あるいはマイ箸等の省エネ行動の推奨なのか。

事務局：まだ開始したばかりだが、副市長による講義を庁内職員向けに動画配信するといった研修を実施している。また、毎月掲示板にウォームビズやマイボトル持参等のアクションについて啓発を行っている。

六車委員：他自治体では、独自のエコマネジメントシステムの一環で、各職員の環境配慮行動、例えばマイボトルを持参する等について、自分で目標を宣言し、毎月、取組実績を自己評価して、その結果を担当がチェックする取組を行っている。国分寺市でもすぐにこういったことを取り入れることは難しいと思うが、今後考えられないか。

事務局：先程ご紹介した研修は、キックオフとして行っているもので、まだまだ始めたばかりである。より具体的な取組については、これから検討を行っていく予定であるが、本日のご意見も踏まえて、検討を行っていききたい。

六車委員：紹介した取組は10年くらい継続されているが、職員の負担が大きいといった状況もあるようだ。よい取組だとは思いますが、継続が難しい面があるため、国分寺市としてよいやり方を検討いただきたい。

益子委員：市職員が実践していくべき行動の例として、使い捨てプラスチック製品の使用の削減や、水筒、マイ箸の利用があるが、新庁舎に移転した際に、近隣店舗のお弁当やペットボトル飲料等を買いたくなくても買わざるを得ないという状況もあるのではないかと。削減したいと思っても、食堂や給水スポット等の環境が整っていなければ実践が難しいこともある。モデルケースとして新庁舎でできることはないか。

中西会長：新庁舎でなるべくプラ容器を使わない食堂はできないか。民間でも使い捨て容器ではなく、リユース食器を使う工夫も始まっている。

事務局：市では来年5月から、これまでの容器包装プラスチック回収に加え、製品プラスチックの回収も開始する予定である。ご意見いただいたような新庁舎の環境整備については、まだ決まっていないが、最近はリユース容器も普及し始めているようなので、研究しながら取り組んでいきたいと考えている。

野澤委員：自身が勤める大学でもペーパーレスは基本で、マイ箸等も取り組んでいるが、気候変動対策はそんな時代ではないのではないかとというのが正直なところである。もちろん一人

ひとりが脱炭素のための行動を実践するのは必要なことだが、温室効果ガスの削減効果としてはわずかである。排出量の削減結果よりも、気候変動対策に取り組んだという広報に利用してしまっている印象もある。他自治体の事例も、職員の事務仕事が増えてしまうのであれば非効率という見方もある。人々の意識変容は必要だが、気候変動対策としてそういう水準の取組が本当に必要なのか、効率的でないことのラインは見極めが必要という印象である。

中西会長：職員の率先行動というのは、脱炭素に対する意識を高めるための素地作りに当たるが、それらの行動が排出量の削減に直結するかといえば話は変わってくる。市役所版計画での位置付けは、一人ひとりが温暖化対策に意識を向けるための方向性と理解しているが、どのような形で進めるのがよいか。

野澤委員：先程の意見は感想であり実感であり、市への要望でもあるといったところである。市役所版計画として、あまり率先行動に力を入れ過ぎるのは個人的に違うのではないかと思う。

事務局：現行計画（第四次計画）までは、このような職員による日々の率先行動を施策の主としてきたが、第五次計画では、施設や設備のハード対策も重きを置いている。特に新庁舎については、省エネ効果の高い施設・設備や再エネ設備の導入、実質再エネ 100%の電力調達を目指している。また、DXの視点も含めてペーパーレス等にも取り組んでいく予定である。このようなハード対策を講じた上で、職員一人ひとりが意識を持って行動していくよう、普及啓発も行っていきたいと考えている。

中西会長：市役所版計画から削除するという訳にもいかない部分だろう。現行計画から、ハード対策についても多く取り入れており、指標として数値目標も掲げているので、評価しやすいのではないかと思う。

巻田委員：18 頁の公用車の次世代自動車化について、EV 車の普及が進んでいる中でいま課題になっているのは、帰宅時などに EV 車の充電が集中し、無駄が出て来てしまう状況がある。そのため EV 車の運用の際には、バランスよく充電することも視野に入れる必要があるが、その辺りはどのように考えているか。一斉に充電がされ、電力が多く使用されると、それだけ料金も上がってしまう。なるべく使用量の少ないところで、うまくバランスよく充電すると言管理も必要になるため、導入時には検討していただくのがよいと思う。

中西会長：運用をしているところでは、そういう問題があるということか。

巻田委員：自社では EV 車や燃料電池車を保有しているが、特に燃料電池車は、立川の事務所から八王子まで燃料を入れに行くといった場合もあり、なかなか充電が難しい状況もある。一番導入が簡単なのは電気自動車かと思うが、その際は運用も考えておいた方がよいだろう。

伊藤委員：公用車の次世代自動車化について、電気自動車の場合、災害時等でそもそも電気が使えず EV 車が使用できない場合が懸念される。災害時には特殊車両以外の車両も使用することが想定されるため、EV 車だけでなくバランスよく導入していただくのがよいと思う。

事務局：ご指摘いただいたような状況を踏まえて、ハイブリッド自動車を含む導入率は 100%、ハイブリッド自動車を含まない ZEV の導入率は 50%以上で指標を設定させていただいている。

- 中西会長：新技術を導入すると、運用を通じて新たな問題や課題が出てくるだろう。運用して初めて分かることも多いとは思いますが、先行事例を参考にしながら進めていただきたい。
- 竹内委員：施策2は環境に配慮した建物や設備の整備ということで、ハード対策が中心となっているが、近年グリーンインフラと言われている緑の活用の考え方をもっと取り入れていただきたい。いわゆるグリーンインフラは緑の多機能性が重要視されている。市域版の国分寺市ゼロカーボン行動計画では、緑の量が少ないため吸収量の算定には含めていないが、緑の機能はCO<sub>2</sub>吸収だけではなく、温暖化の緩和や雨水浸透といった機能があり、そのような機能を積極的にインフラ整備に取り入れていこうという方針を10年くらい前から国土交通省が出している。そのため、ぜひ施策2にこのような考え方を入れていただきたい。市役所版計画の対象範囲にもよるが、他市では環境分野について、公園、ごみ処理、下水処理等の部署が総合的に集まって議論を行っているところもある。そのような場で施設・設備だけだと狭い議論になりがちであるため、市役所版計画が矮小化された行動計画になってしまわないか懸念がある。
- 中西会長：市役所版計画は、職員による省エネ行動を中心として計画として始まった経緯があるため、これまでは市役所の中での対策や取組が多かった。本日の計画案も、市のまちづくりそのものにまでは言及していないと思うが、事務局としていかがか。
- 事務局：市役所版計画は、市の事務及び事業に関する温暖化対策を対象とするため、公共施設における対策等が対象となる。公共施設の整備において、グリーンインフラの視点は取り込める部分はあると思うため、事務局で検討させていただく。
- 中西会長：グリーンインフラは近年のトレンドになってきており、何よりも多機能であるという点の特徴である。施策2に入れられるとよいだろう。
- 竹内委員：国分寺市の場合、公園整備や改修はまちづくり計画課の所管ではないのか。
- 事務局：公園整備は緑と公園課が所管し、設計や管理を行っている。
- 竹内委員：環境審議会や庁内で議論する際に、そういった横の広がりがないと議論しづらいと常々感じている。市役所内でも議論の参画の幅を広げるなど検討いただけるとよい。
- 事務局：計画の検討については、庁内に検討組織を設けており、緑と公園課や経済課、公共施設マネジメント課等、10課ほどが参加し横断的に検討を行っている。
- 竹内委員：審議会においても、審議会委員との議論を担当課と直接やりとりできるとタイムラグ等も解消でき、スムーズに意思疎通できるようになるのではないかと。
- 中西会長：随分前に環境審議会でそのような意見が出たことがあるが、今はまちづくり計画課が窓口となっている。過去には必要に応じて、担当課が参加したこともあったようだが、スケジュールの関係で難しい面もあるようだ。今回は個別に緑と公園課と調整いただきたい。
- 六車委員：15頁に第四小学校の屋上に太陽光パネルを設置したことが紹介されているが、市内小中学校15校について、今後の計画はどのようなになっているのか。建て替えなのか、長寿命化して使うのか、長寿命化するのであれば太陽光パネルを載せられるような改修をして早めにパネルを設置するといったことも考えられるのではないかと思ったが、市役所版計画には特に記載されていないため伺いたい。
- 事務局：これまでは施設の新築・更新の際に、再エネ導入について検討をするという方針で進めてきた。学校の場合、増築するときにも太陽光パネルの設置についても検討している。

本計画においては、再生可能エネルギーの導入は、太陽光パネル等の設備機器の導入だけではなく、実質再エネ 100%の電力購入も含めて、広い視点で再エネ導入を検討していきたいと考えている。太陽光パネルは近年技術開発が進んでおり、もう少し待てば本市としても導入しやすい製品が出てくるかもしれないという状況の中で、今すぐパネルを設置すればよいのか判断が難しい部分がある。そのような点も含めて、広い視点で進めていきたいと考えている。

六車委員：2050年までにどれくらい導入するのかといった計画が見えない点が気になった。市内3施設に太陽光発電設備を設置しているとあるが、学校は15校あるのかで何校設置されているのか。

事務局：小学校は現在1校だが、来年度増築校舎に2校増える見込みである。太陽光発電施設の設置数ではなく、使用する電力全体で再生可能エネルギーをどれだけ導入できるかを今回は指標に設定している。費用負担等も含めて比較検討しながら進めていく。

六車委員：来年度の予定を、本計画で紹介することは難しいのか。

中西会長：この部分だけあまり具体的に記載するのは他とのバランスもあり難しいのではないかと。

三浦委員：15頁には、太陽光パネルの施工事例として分かりやすいもの掲載していると思う。来年度以降の事業は、市議会で予算を議決する必要があるため、このタイミングで市役所版計画に具体的に書き込むことは難しいのではないかと。実施設計も終わっていて、進みたいという行政の計画があっても、議会の決議がなければ決定にはならない。

事務局：学校については基本的に長寿命化、生徒数の増加でクラスが足りない場合は増築していくというのが当面の方針となっている。現在の校舎は、太陽光パネルの開発前に建設されており、調査の結果、太陽光パネルを載せることのできるスペースはかなり限られていることが分かっている。安価で発電効率の良いパネルが開発中であり、長期的な導入計画を市役所版計画で示すことは難しいと考えている。

中西会長：本日の案には、現状で記載できることは入れていただいているという認識である。

六車委員：12頁の計画の目標について、長期目標、中期目標の順で記載されているが、時系列で並んでいた方が分かりやすいと思うがいかがか。

中西会長：最終的な目標が一番重要であるため、長期目標である2050年を頭に持ってきているのだと思うがどうか。

事務局：長期目標については、会長のお見込みのとおりである。中期目標については、本計画の計画期間はあくまで2030年度であり、2030年度60%削減が主目標、2035年度は補足的な目標と整理し、このような記載順としている。

和田委員：10頁に計画の期間の項目があり、長期目標年度、中期目標年度として記載されているため、計画の目標の最初に長期目標が記載されている方が筋としては合っていると思う。

中西会長：長期目標、中期目標の順で、今の並びとする。

六車委員：20頁の計画の推進に、「環境報告書や市のホームページ等」と記載されている。環境報告書については市で発行しているものだと思うが、そのことが分かるように記載するとともに、市域版のゼロカーボン行動計画と記載を統一した方がよいだろう。

中西会長：市域版・市役所版ともに環境報告書については正式名称を記載することとする。市役所版の答申には、実際に施策を推進していくに当たって、運用も考慮しながらバランスよく取り組んでいくこと、また、運用を始めたことで出てくる課題もあるため、それらに

も配慮して取組を進めるといった内容を入れていきたい。答申の記載ぶりは会長と副会長と事務局で審議して委員の皆さんに周知する、あるいは会長に一任いただく形があるがいかがか。

事務局：会長に一任いただき、その結果を委員に周知する形でいかがか。

中西会長：そのように対応させていただく。委員の皆さんには8～10月まで毎月審議いただき、感謝を申し上げる。ゼロカーボン行動計画についての審議は今回で終わりだが、来年度は環境基本計画の審議がある。さらに大変になるかもしれないが、皆さんには引き続き協力をお願いしたい。

### 3. 事務連絡

事務局：本日の議事要約は作成後、後日確認をお願いさせていただく。次年度第1回環境審議会は6月頃に開催を予定している。改めて調整の連絡をさせていただく。

### 4. 閉会

中西会長：令和5年度第6回国分寺市環境審議会を閉会する。